

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

32

2013

◎特集 新しい息吹と、さらなる進化をめざして

DOCTOR'S VOICE 01 よりよい診療環境を目指して外来棟のリニューアル

DOCTOR'S VOICE 02 最新鋭の遠隔操作型ロボットを導入

DOCTOR'S VOICE 03 乳腺疾患に対し専門的に対応する乳腺センター

DOCTOR'S VOICE 04 医療は生活に戻すために
トータル・メディカル・サポートセンター



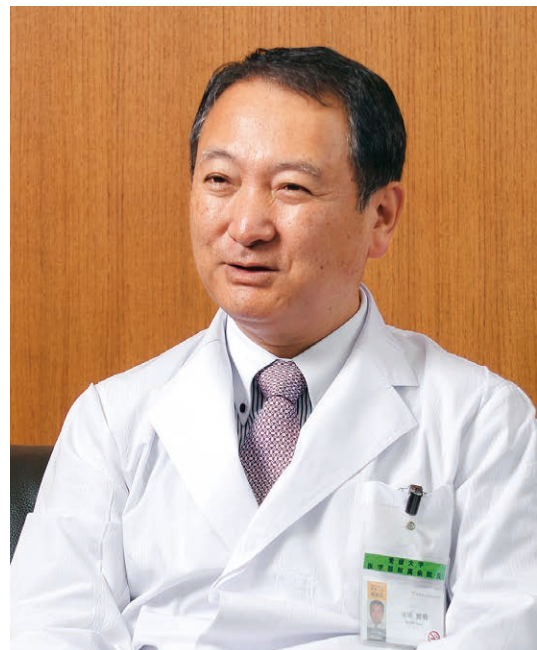
新外来棟オープン、ようこそ愛大病院へ 心安らぐ癒しの空間を目指します

病院長 檜垣實男 医師

平成25年4月、新外来棟がプレオープンしました。外来部門は患者さんを迎え入れる玄関です。私たちは、我が家へお迎えするようなおもてなしの心で患者さんと接し、外来棟が患者さんにとって心安らぐ癒しの空間となることを目指しました。当院の外来患者さんの多くが循環器系疾患や癌を始めとする慢性疾患の方です。時間をかけて病気を治していこうとしている方々にとって、外来にいらっしゃる時間もその方にとって人生のかけがえのない時間です。新しい外来棟では、その時間を快適に気持ちよくそして有益に過ごしていただけるのではないかと期待しています。

新しい外来のシステムに合わせて、「総合診療サポートセンター」が稼働します。外来の患者さん、あるいは他の医療機関から紹介のあった患者さんについて、入院が決まった時点から情報を収集し、入院治療そして退院後を踏まえた治療プラン・ケアプランを医師やメディカルスタッフが一括となって作成します。患者さんはこのプランに沿って、途切れることの無い医療サポートのもと外来から入院へ、そして退院して、地域の医療機関からご自宅へ帰ることになります。患者さんお1人に対して、多職種が集中して医療を提供することになりますので、安心してレベルの高い医療を受けていただくことができます。医療にとっては、患者さんお1人に何人の職員を配置できる

かということが非常に大切です。そういう意味でチーム医療を推進しているのですが、チームがたくさんあるだけでは不十分で、それらをしっかりと統合し患者さんのために活用していく必要があります。総合診療サポートセンターは、数多くのチームを統合して運用するという点で、全国的にも注目されている取り組みです。この他にも、認知症の疾患総合センターや、出生前遺伝子検査も行う臨床遺伝医療部、またナースキャリアセンターという職員のライフスパンにわたってキャリアを考える部門なども新たに設置あるいは強化されます。このような部門が同時に立ち上がることで、今までよりも外来機能が非常に充実して参ります。建物を改修増築しただけではなく、外来を、患者さん自身が自分の健康を守っていけるような、患者さん主体の部門として機能させていきたいと考えています。4月にオープンしたのは中央部分のみで、これから更に2年かけてその他の部分も改築改善していきます。それぞれの科で、より良い患者さんのケアのためにアイデアを練っています。



PROFILE

ひがきじつお◎1953年愛媛県生まれ。1978年大阪大学医学部卒業、1998年7月大阪大学加齢医学助教授。2002年5月から愛媛大学第二内科教授。その後、大学院病態情報内科学教授、副病院長（企画経営、企画総務担当）を経て、2012年4月1日に病院長就任。趣味は読書、ドライブ。

私は患者さんが病院に来るだけでほっとできるような、総合的な病院づくりを目指しています。今回の新外来棟の改修はその第一歩です。四国はお接待の心豊かな土地。ボランティアの方々も、日本で一番多くて質の高い活動をされています。そういった総合力を活かしながら、患者さんが身体も心も癒していただけるような病院を作りたいと思っています。



竣工式は平成25年4月21日



外来棟中庭に新建屋を増築、併せて周りの外来を全面改修

最新手術支援ロボット「da Vinci Si」導入

副病院長 渡部祐司 医師



PROFILE

わたなべゆうじ◎松山生まれ。消化管・腫瘍外科学教授、低侵襲・がん治療センター長、副病院長。1983年愛媛大学医学部卒業。(西)ドイツ留学で肝臓移植の臨床・研究を学ぶ。その後、内視鏡手術導入のためアメリカで研修を行い1991年より内視鏡手術を開始。食道、胃、大腸がんの内視鏡手術が専門。趣味はギター、料理。

平成25年2月に、内視鏡手術支援ロボット「da Vinci (ダヴィンチ)」の最新機種「Siタイプ」が導入されました。日本では2台目、西日本では1台目の導入です。旧機種の「Sタイプ」は操作を行うコンソール部が1台しかありませんでしたが、「Siタイプ」では2台まで接続できるようになりました。これにより、同時に2名の医師が手術を行えるようになり、手術をしながらリアルタイムで他の医師に教育ができるようになりました。今までロボットを使用した手術は医師(技術者)の教育が難しかったのですが、「Siタイプ」は育成の点で非常に有用です。また、旧機種に比べて画像も極めてクリアになりました。

現在は、外科・泌尿器科・婦人科の計6名の医師が、手術を行うための研修と

レーニングを受けています。当院では6月半ばに1例目の手術が行われる予定です。「da Vinci」を使用した手術は、一部を除き保険が適用されません。そのため、一般病院ではなかなか取り組むことが難しい状況です。医療の標準化のために、このような先進医療に取り組むのは、まさに大学病院の使命です。これからも、多くの病院でロボット手術が普及するよう尽力していきたいと考えています。



充実した設備の中、安心して専門的な医療を

乳腺センター長 亀井義明 医師



PROFILE

かめいよしあき◎1995年愛媛大学医学部卒業。第一外科に入局、県立中央病院、市立宇和島病院、今治市民病院、松山市民病院、がん研有明病院乳腺センターを経て現職。趣味はサッカー・野球観戦。

乳癌の治療は従来、旧第一外科、旧第二外科が行い、最近では主に肝胆膵・移植外科の医師が担当していました。しかし増加する乳癌患者に対してより専門的に対応するべく乳腺診療の専門部署として、2年前の春(平成23年4月1日)に乳腺センターが開設されました。

発足時は外科外来の1室で診療をしていました。平成25年度からは新しく完成した外来棟にセンター専用の診察室2室と専用エコー室を完備し、非常勤医を含めると専属の医師5名(うち女医3名)で診療にあたっています。「RI法によるセンチネルリンパ節生検」や「腹臥位式ステレオガイド下マンモトーム」も導入しています。カンファレンスは乳腺科医、腫瘍内科医、放射線科医、病理医、薬剤師、看護師等多職種

によって行い、連携してそれぞれの患者様にあった適切な治療を行っています。また他科との連携により合併症を有した患者様も安心して専門的な治療を受けていただいています。

乳癌の治療は手術・薬物・放射線治療やリンパ浮腫治療、心のケア等まさに集学的な治療です。センター長である私の役割は手術、薬物治療を担うとともに、集学的な治療の舵取り役でもあります。気軽に受診していただけて、穏やかな雰囲気の中で安心して高度な医療を受けられるセンターを目指したいと考えています。また、教育面では愛媛大学の学生や研修医に乳腺医療の面白さを理解してもらい、大学や県内の病院で活躍する乳腺科医を育成することも課題だと考えます。

患者さんが安心して地域へ戻れるように

トータル・メディカル・サポートセンター長 榎本真幸 医師



当院では10年以上にわたり「医療福祉支援センター」が地域の医療機関との連携や在宅医療への橋渡しをサポートしてきました。この度、サポートのさらなる充実を目指し、看護部や医事部門などが一体となった「トータルメディカルサポートセンター（TMS）」が新たに開設されます。当センターでは、入院患者さんのご希望・考えを一番の軸にして、いち早く患者さんが地域へと戻っていけるよう多職種が連携して退院支援を行います。また、患者さんが生活の中で安心して医療を受けられるよう、外部の医療機関等との連携の強化、病院の内部・外部を含めた全体的なマネジメントを推進していきます。

2012年度 中四国 地域医療フォーラムを開催



平成25年3月10日（日）、地域医療支援センターと本学大学院医学系研究科地域医学講座との共催で松山市総合コミュニティセンターで開催しました。フォーラムには中四国の各県と兵庫県の自治体、大学から46人の参加があり、参加者にとってそれぞれ実りの多い機会となりました。またフォーラムの後には、学生によるワークショップが開催されました。

地域医療支援センター
☎089-960-5990

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

関連病院長会議を開催



平成25年3月9日（土）、第24回愛媛大学医学部関連病院長会議を開催しました。この会議は当院と人事交流がある県内外の関連病院長、当院の基礎系及び臨床系の教授、中央診療施設等の部長等が構成員となっております。総会では、安川研究科長から「医学部の現状等について」、榎垣病院長から「病院の現状等について」スライドを用いて説明があり、出席者は熱心に傾聴していました。

総務課総務チーム ☎089-960-5125

全国国公立大学病院救急部協議会 及び同看護部会を開催



平成25年2月8日（金）、当院主催で当院救急部が幹事となり救急部協議会及び同看護部会を開催しました。本協議会は、全国の国公立大学病院救急部門における諸問題を研究討議しその向上発展に寄与するとともに、救急部門相互間の情報交換を図ることを目的として毎年開催されているものです。130人以上の医師や看護師が出席し、活発な意見交換が行われるなど大変有意義な協議会となりました。

救急部 ☎089-960-5722

編集後記

寒暖差の激しかった春がようやく落ち着きました。新年度にあたり当院も新たに多くの新人スタッフが加わり、春とともに今まさに新しい息吹を感じております。本号では病院長の「燃える思い」とオープンした新外来棟及び総合診療サポートセンターの設置、日本で2台目の最新手術支援ロボット「da Vinci Si」導入、乳腺センター、関連病院長会議の報告などの話題を提供させていただきました。今後、患者さんが安心できる病院を目指しさらなる発展・進化に努めてまいります。これからも皆様のご支援、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙

病院長 榎垣真幸

地域医療支援センター長 高田清式

看護部長 田淵典子

新人研修医、看護師

— 医学部本館 —



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111（代）

ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>